

アナログディスク再生取組開始前に検討すべきこと

アナログディスクは音がいいということで、アナログディスク再生システムを導入する事は本当に結構なことです、その前に幾つか自問自答をして全体の構想を検討しておく方が無難です。

- 1 どのようなジャンルの、いつ頃の年代のアナログディスクを聴こうとしているのか？
これはアナログディスク再生システム（の機器）に大変な影響を及ぼします。

ひとつの例ですが、1950年代のジャズをメインに聴くとします。

この時代のLPは現在でも米国で発売されていますし、Amazon 経由安価に入手が可能です。

注意しなければならないことは、この時代のLPはモノラル録音が主流、ステレオ録音のLPが出現するのは、この年代の後半となります。

この場合、ディスクを再生するカートリッジはモノラル用を主体に揃えればよいこととなります。

もちろん、ステレオ用のカートリッジでもモノラルレコードの再生は出来ませんが、せっかく音質を追究してアナログディスクの再生を開始するわけですから、「初志貫徹」です。

しかしもし音楽鑑賞の対象が1970年代のロックなら？この時代は全てのLPレコードはステレオ録音になっていたはずです。

このように、CDの再生では意識しなかったことをアナログディスクの再生では意識する必要があります。

更に、問題はカートリッジだけではありません。

対象としているジャンルと年代でモノラル録音とステレオ録音が混在する場合、1台しかアームを装着出来ないプレーヤーだと（これが普通ですが）レコードによってカートリッジを交換しなければなりません。これは面倒です。

かといって、2台のプレーヤーを用意するのは経済的にもスペース的にも問題です。

1台のプレーヤー（=ターンテーブル）に2本のアームを取付られる機種もあるので、これなら常時モノラルカートリッジとステレオカートリッジを装着しておくことが可能です。

もちろん、これらを受けてくれるフォノイコライザー、プリアンプなどは2系統を持っていないといけません。いちいちケーブルの接続を替えるようでは不便です。

- 2 どの位の枚数のアナログディスクを必要とするか？
アナログディスクはかさばるし重いので、一体どの位の枚数になるかはあらかじめ予想して収納スペースを用意すべきです。
普通は立てて収納しますが、小分けにして平積みという手もあります。
- 3 アナログディスク再生に付き物の小物類収納スペースを用意する
アナログディスク再生の場合は小物類が結構ありますし、必需品でもあります。
CD再生では考える必要が無かったことです。
- 4 肝心のレコードプレーヤーを設置するためのスペースの確保
アナログディスクプレーヤーはCDプレーヤーとは違い「段積み」が出来ませんし、横幅も奥行きもかなりのスペースを必要とします。
しかも地震に対して安全で水平なスペースを用意しなければなりません。
- 5 アナログディスク再生システムの全体は出来るだけシンプルに
アナログディスク再生システムについては、その運用・活用にエネルギーを注ぐべきです。
その為にはシステムそのものは可能な限りシンプルで分かり易いことが望ましいと思います。
アナログディスク再生システムとは、アナログディスク（の再生音）と向き合うためのものだからです。
複雑なこと、ややこしいことはシステムから出来るだけ排除すべきです。

以上